

格差の広がるアフリカ

— 開発が遅れるサハラ以南のアフリカは今 —

サハラ以南のアフリカは、アフリカの他の地域に比べて、5歳未満児の生存が脅かされている地域です。2006年、サハラ以北にある国々では、5歳未満児の死亡率が年間出生数1,000人あたり35人の割合であったのに対し、サハラ以南のアフリカでは1,000人あたり160人でした。いまだに、6人に1人の子どもが5歳の誕生日をむかえられずに亡くなっています。



©UNICEF/HQ08-0451/Tegene
カトリック教会内にある栄養センターで重い栄養不良の子どもに治療用のミルクを飲ませる女性（エチオピア）

サハラ以南のアフリカの現状

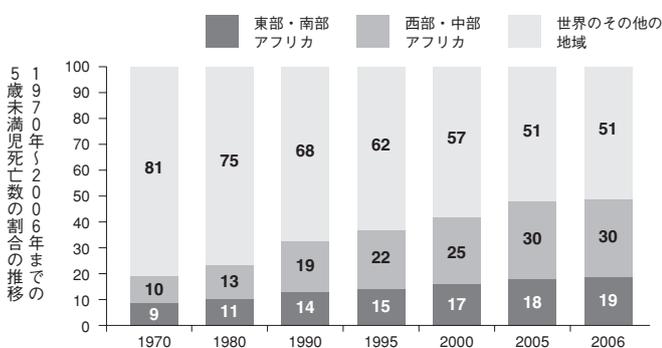
サハラ以南のアフリカは、アフリカ大陸の中でサハラ砂漠から南に位置する国々を指します。ユニセフの地域分類では東部、南部、西部、中部アフリカに属する46カ国が含まれます。貧困の拡大、HIV/エイズの急激な蔓延、干ばつや洪水などの自然災害、内戦の長期化、低レベルの保健システムなど、さまざまな要因が多く、国々で開発課題に対する取り組みを停滞させています。

サハラ以南のアフリカでは、保健に関連するミレニアム開発目標の大半において達成できそうにありません。2007年の時点において、5歳未満児死亡率や妊産婦の死亡率、子どものHIV感染率、安全な水やトイレ・下水施設の利用などすべての指標において進捗が不十分か、もしくは全くみられない状況です。

子どもたちの生存を阻害する要因

1990年～2006年の間、サハラ以南のアフリカにおける5歳未満児死亡率は14%減少しましたが、【表1】の世界の5歳未満児死亡数においては、全体に対するサハラ以南のアフリカの占める割合が年々、増加しています。2006年には、世界の5歳未満児死亡数のほぼ半数がサハラ以南のアフリカでした。

【表1】世界の5歳未満児死亡数において
サハラ以南のアフリカが占める役割が増加している



出典：機関間乳幼児死亡率評価グループ（Inter-agency Group for Child Mortality Estimation）の研究結果からユニセフが推計

サハラ以南のアフリカでは、以下をはじめとする複合的な要因が子どもの生存状況を厳しくしています。

● HIV/エイズの蔓延

現在、世界でHIVに感染している大人の68%、子どもの90%がサハラ以南のアフリカに集中しており、世界で最もHIV/エイズの打撃を受けています。2007年、世界のエイズによる死亡者数の75%、エイズのために両親または片親をなくした子どもたちの80%がこの地域にあたります。

● 栄養不良

特に東部、西部アフリカでは、食料不足の影響を受けて、栄養不良が深刻な問題になっています。乳幼児の死亡の3分の1は、母親または子どもの栄養不良が原因です。

● 衛生

この地域の約45%が安全な飲料水源を、約60%がトイレ・下水施設を利用していません。不衛生な環境などが原因で下痢性疾患にかかったサハラ以南の子どもたちの70%は、その対策に効果的な経口補水塩による治療を受けていません。

● 出生登録

2006年、この地域で出生登録されなかった子どもは、1,970万人。出生登録をされないと、予防接種などの保健サービスや小学校への入学の機会などが受けにくくなります。

サハラ以南のアフリカの人口約7億5,000万人のうち、18歳未満の子どもはおよそ4億人。その子どもたちが健康に生き延び、教育を受け、アフリカの未来を担う大人へと成長していくことが、アフリカの前進そのことに他なりません。